



## 【おうち英語】exposure という考え方

私が運営するオンライン英会話スクールでは、  
レッスンを提供しているフィリピン人講師に  
毎週金曜日に交代でコラムを連載してもらっています。

それぞれの講師を身近に感じていただくために、  
講師のプライベートであるとかフィリピンの風習等、  
様々なトピックを語ってもらっていますが、  
以前「どのように英語を習得してきたのか？」ということテーマを設定し、  
英語を第二言語とするフィリピンの人が  
どうしてあそこまで英語を流暢に使いこなすことができるのか  
その秘密を語ってもらったことがあります。

そのコラム中に  
「これぞおうち英語を体現したような言葉だよなあ・・・」という言葉がありました。

その言葉とは【exposure】という言葉です。

exposure とは

さらすこと、野ざらし、身をさらすこと、触れさせること、  
触れること、露見、暴露、摘発、(家・部屋の)向き、人前に出ること  
出典:Weblio

という意味になります。

教科書や入試問題などではこの単語を見かけるとなると、  
"exposure to radiation(放射能被ばく)"などと  
あまりポジティブな意味では使われないイメージですが、  
「おうちにおいて英語環境に子どもをさらさせる」という意味で  
これ以上に適切な言葉はないのではないかと私は思います。

よく似たような言葉で【英語のシャワー】という言葉があっさりしますが、語感の問題だったり受け手の解釈の問題のような気もするのですが、私にはちょっとしっくりこないところがあります。

なんかシャワーって一時的にジャーと浴びるイメージないですか？

一日中シャワーを浴びている人なんていないでしょうし、何より貧乏性の私などにとってのシャワーという言葉には、「節水ヘッドで水量は限りなく絞り、短時間で水を節約しなければ!」などという実に貧乏くさいイメージが付いて回ってしまい、なんだかいただけません。  
(言葉にケチ付けてないで「お前の貧乏性を何とかしろ!」という話?)

私のような貧乏性の人のシャワーの使い方は水圧弱めかもしれませんが、シャワーの水圧には強弱がつけられるため、英語をシャワーに例えると、どれくらいの水圧にすればよいのか(どれくらい英語を与えればよいのか)というところが、人それぞれの解釈となります。

人によっては「それはもうシャワーではなくてケルヒャー(高圧洗浄機)ではありませんか?!」ぐらいの水圧を求めてしまう人もいたりするので、場合によっては危険です。

そんなに英語ばかりやってはアブナイですよ!という方もいらっしゃるし。。。。

それに対して【exposure~さらされる・野ざらし~】っていいですね。

無限なイメージです。

日光や風のように無理なく無限にしかもタダで(貧乏性万歳!)与えられるという自然の恵み感が最高に出ているではありませんか。

そしてなんだか環境さえ整えれば頑張らなくても自然に恩恵を享受できそうなイメージまであります。

土壌に種を植えたら

自然に日光と雨が植物に育ててくれる感がありませんか???

人間には生まれながらに言語を習得する言語習得能力が備わっています。

すべての人の中に育つ種があるのと同じですよ。

お日様と適切なお水と栄養を植物に与えるように、  
適切な言語の環境を与えてやれば、  
自ずとその能力は開花していくのではないかと。

ただ残念ながら日光や雨のように  
言語環境は天から自然に降ってくるわけではありませんし、  
母語である日本語であればまだしも、  
英語は日本では日常的に使用されていない言語であるため、  
かなり人為的にその環境を作り出さなければならないということはあります。

この【exposure】という言葉から学べることは、  
その環境の作り方なのではないかと思えます。

先に述べたシャワーというものが一時的なものとするならば、  
【exposure】は断続的で意図しない形で英語の与え方なのではないかなと。

一時的にまとめてドーンと英語の時間を作るとか、  
勉強という形で「今日はこの文法項目・この単語を覚えなさいよ!」という意図を  
バリバリに設ける感じではないというように、  
自然習得するための環境を整えるイメージが掴みやすいように  
私は感じるのです。

不自然さを排除して、  
自然な感じを追求することがおうち英語では大切なのではないかと。

英語をたくさんシャワーを浴びるように聞き、  
自らも英語で発話する機会を多く持てば言語習得に益するとの考え方から、  
日本の中学・高校での英語授業も英語で行うという  
オールイングリッシュの授業が学習指導要領に盛り込まれています。

この施策が成功しているかどうかの議論は  
また別の機会に譲りたいと思いますが、  
いくら学校の授業が本当にオールイングリッシュで行われたとしても、  
それはまさしく一時的な【シャワー】であって、  
【exposure】と呼べるほどの曝露ではないと思います。

英語の授業は中学でだいたい週3、4回、  
高校の普通科で週5、6回程度のもので、  
週に5、6時間英語をシャワーのように浴びたからと言って、  
それだけで言語習得が進むとは考えづらいような気がします。

しかも今の学校の英語の授業は  
オールイングリッシュで行われているとは言い難い状態ですし。。。

(こう書くと、オールイングリッシュになることを  
望んでいるように受け取られるかもしれませんが、  
私は現状での英語教育でオールイングリッシュで授業を行うのは反対なのです。

オールイングリッシュの授業に対応できるだけの  
土台を作る機会を満足に設けずに  
形だけ理想を追うのはいかがなものかと思っています。  
これを話し始めると長くなるので別の機会に・・・)

家で送る生活の中にいつもどこかに英語があり、  
その英語に自然と曝露するという環境。

子どもに聞くことを強いるわけではないけれど、  
かけ流しで英語がどこからともなく流れていたり、  
洋書絵本が転がっていたり、  
海外アニメを気軽にいつでも見ることができたり、  
オンライン英会話で毎日英語を話す機会を簡単に持てたり。

「さあ、シャワー浴びますよ!」という感じで、  
英語を学ぶのではなく、  
お日様の光が部屋に満ち溢れている感じで  
英語がいつもどこかにある環境を作り出せることが理想なのではないかな〜と。

その雰囲気を表すのに【exposure】という言葉がピッタリだなと思うのです。

残念ながらこの【exposure】、  
上手く日本語に訳すことができない言葉かと思います。

辞書を引くと先に紹介したように  
【さらすこと、野ざらし、身をさらすこと】という日本語訳が充てられており、  
なんだかちょっとキツイイメージがあるように響いてしまい、  
後に来る【触れさせること】の意味も  
なんだか固く聞こえてしまう感じがしますが、  
【exposure】が持つ語感  
もっと柔らかなところもあるのではないかなあと思ったりします。

語感はおき、  
お日様の光が満ち溢れるように英語に触れられる環境作り、  
それが私のおうち英語の理想形ですね。

もちろん毎日日が照るわけではないように、  
おうち英語にも曇りの日あり、雨の日もあり。  
雷が落ちる日もあったりで(笑)  
まあ、それも良いではありませんか。  
自然は偉大なんだから。(何、このわけのわからない終わり方は・・・)

2021年2月7日投稿 「【おうち英語】exposure という考え方」より  
一部加筆